

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Palbong Middle School



庄原市立庄原中学校



交流授業

学 年：第2学年

単元名：「夢の旅行」を企画しよう

(Our Project 4 NEW HORIZON English Course 2)

ねらい：韓国の中学生に日本に興味をもってもらい、いつか日本に行ってみたいと思ってもらえる旅行プランを紹介することができる。

自己紹介の様子



日本の観光地紹介の様子



活動内容：

①学校紹介（全体）

両校の教員が自校について簡単な紹介を行った。

②自己紹介（グループ）

8つのブレイクアウトルームに分かれ、自己紹介（名前、ニックネーム、好きなもの、部活動など）を行った。

③日本の観光地紹介（グループ）

日本の中学生が、スライドを見せながら、日本の観光地を紹介した。その際、韓国の中学生とやり取りをしながら、相手の好みなどを聞き出し、それを踏まえておすすめの観光地を紹介するようにした。

④韓国の観光地紹介（グループ）

③と同様に、韓国の中学生が、イラストを見せながら、韓国の観光地を紹介した。

⑤フリートーク（グループ）

好きなものや日常生活など、様々なことについて自由に会話をした。特にアニメやゲームの話題は盛り上がった。また、互いの言語を教え合う場面もあった。

《接続方法：Zoom》

大切にしたこと

- ・ブレイクアウトルームに分かれ、生徒一人一人が英語でやり取りする時間をできるだけ多く確保した。また、交流中は、教員が支援しすぎないよう留意し、生徒が自分たちの力でコミュニケーションを図ることができるようにした。
- ・ネームカードやイラスト、スライドなどの資料を準備したり、交流当日はできるだけシンプルな英語を使うよう指導したりするなど、互いが理解しやすくなる工夫をした。
- ・「自分が伝えたい」という一方的な思いだけで伝えるのではなく、韓国の中学生が楽しめそうな場所を考えたり、日本にもっと興味をもってもらうためには、どのような内容をどのように伝えればよいかなど、「相手意識」や「目的意識」をもってコミュニケーションを行うようにした。
- ・事前に準備した内容を発表するだけでなく、既習事項を使って相手とやり取りをし、相手の好みなどに応じて観光地を紹介するようにした。

交流を終えて

生徒の声

- ・普段、韓国の人と話すことがないので、貴重な機会で楽しかった。交流当日は、韓国の中学生と「今、話すことができていいな。」と実感が湧いて嬉しかった。
- ・韓国の生徒と笑顔で話すことができたので良かった。自分と好きなことが一緒だったので、話が盛り上がり楽しかった。
- ・「もっとやってみたい！」と思った。韓国以外の他の国の人とも交流をやってみたいし、英語で世界の人とつながりたいと思った。

先生の声

- ・生徒たちは、韓国の中学生がリアクションをしながら、興味をもって話を聞いてくれていた姿を見て、「伝わった！」という達成感や英語でつながることの楽しさを実感していた。生徒の英語学習に対する意欲も高まり、大変有意義な経験となった。
- ・生徒たちが全員、笑顔で生き生きとやり取りをしている姿を見ることができ、本事業に参加してよかったと思った。